

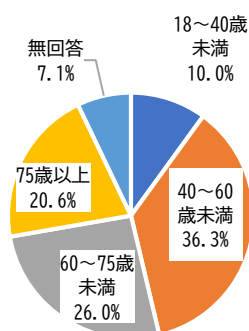
葦原小学校区

地域のちからアンケート(概要)

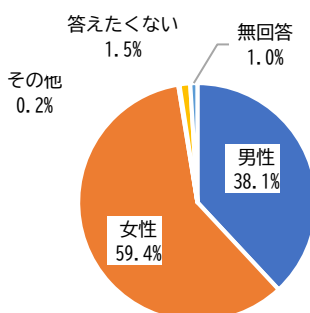
葦原小学校区における地域住民の暮らしや地域活動のあり様を構成する様々な「地域のちから」を把握し、地域の強みと弱みを知ること、今後の地域づくりの基礎データに役立てることを目的に「地域のちからアンケート調査」を2024年9月に実施し、その結果をまとめました。

回答者の属性

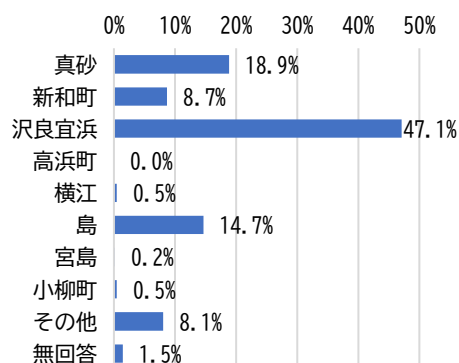
年齢 (N=620)



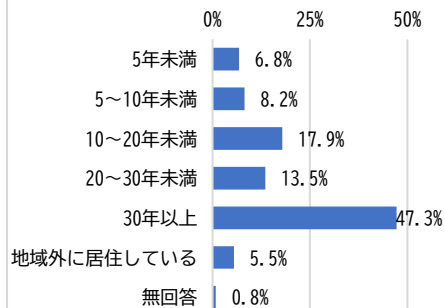
性別 (N=620)



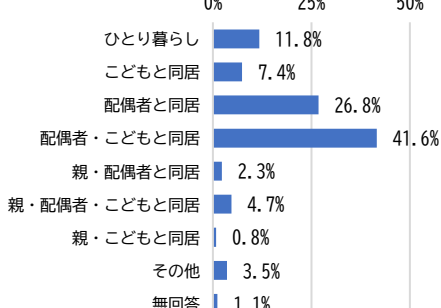
居住地域 (N=620)



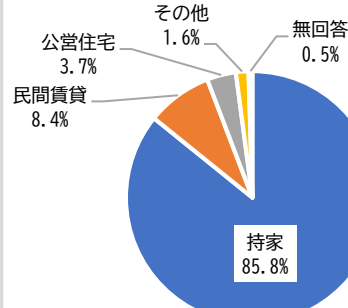
居住年数 (N=620)



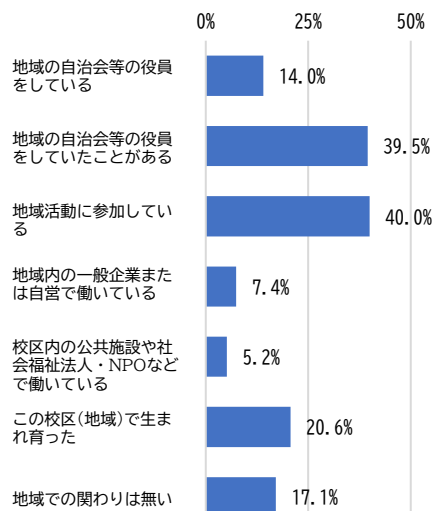
世帯 (N=620)



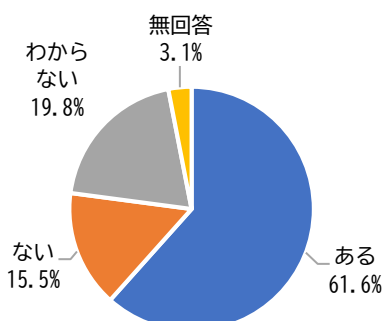
住宅 (N=620)



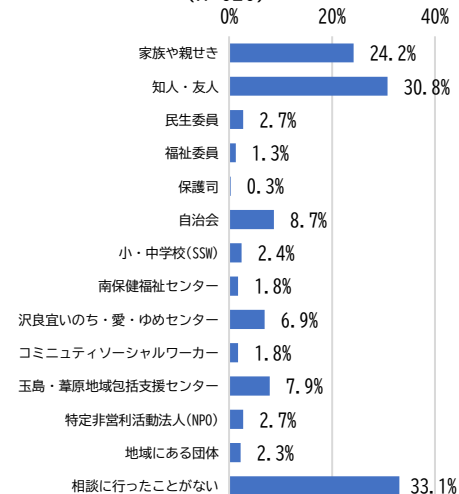
地域との関りについて (N=620)



相談先の有無 (N=620)



相談に行ったことのある人や施設 (N=620)

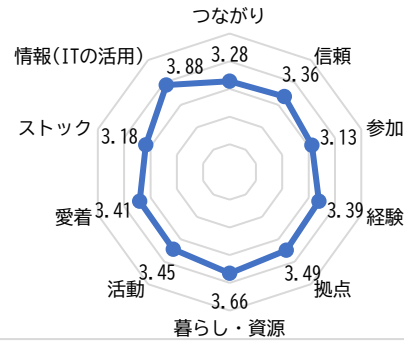


葦原小学校区「地域のちから」の評価結果

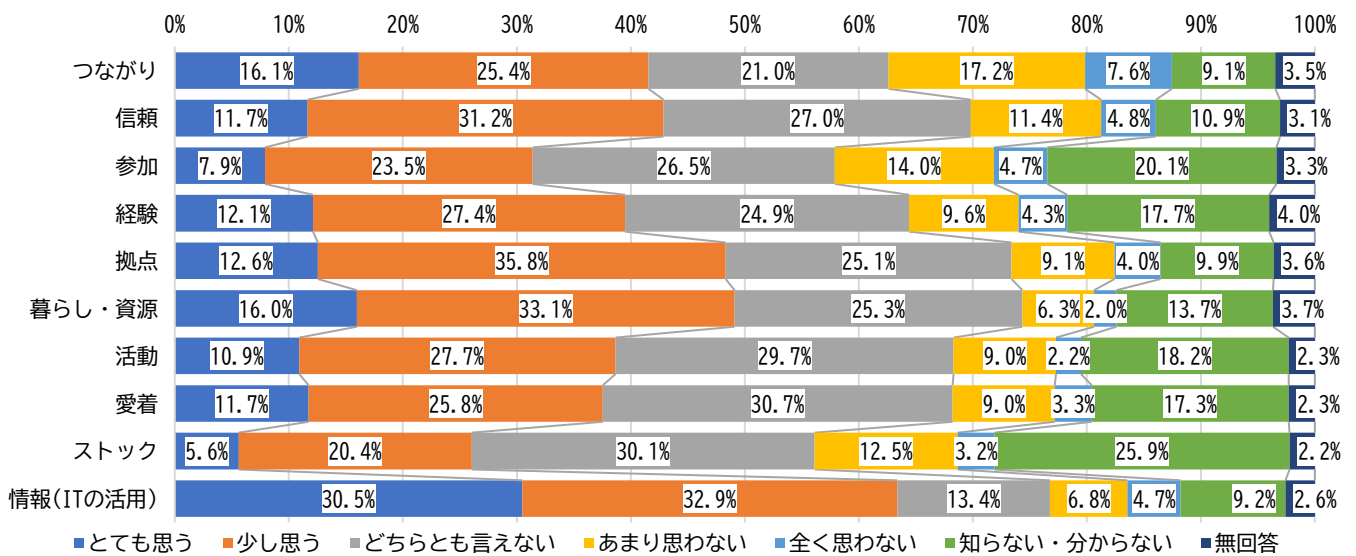
葦原小学校区全体の地域のちからをテーマ別に評価点の大きい順に並べると、情報(ITの活用)>暮らし・資源>拠点>活動>愛着>経験>信頼>つながり>ストック>参加となっている。

「とても思う」「少し思う」を合計した「思う計」の回答率は「情報(ITの活用)」が 63.4%でもっとも多く、次いで「暮らし・資源」が 49.1%、「拠点」が 48.3%となっており、「ストック」が 26.0%で最も少ない。

葦原小学校区・地域のちから (N=620)

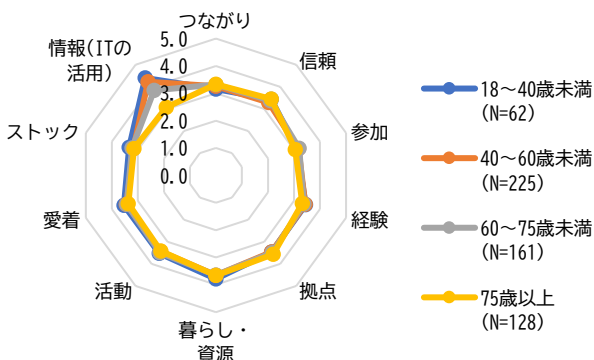


葦原小学校区・地域のちから

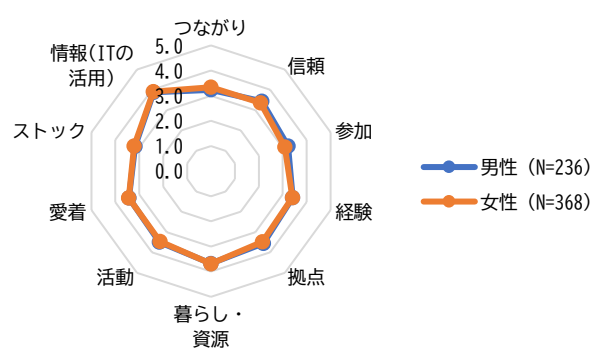


属性別「地域のちから」の評価結果

年齢別



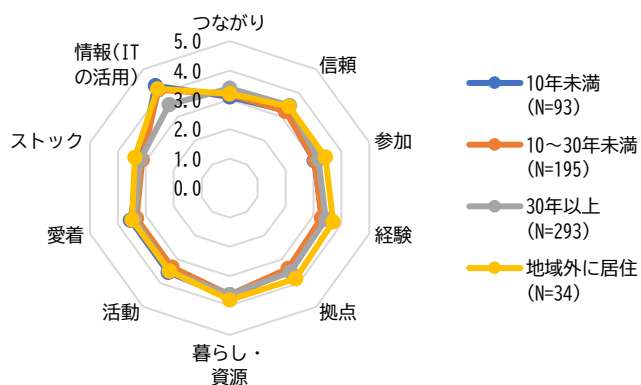
男女別



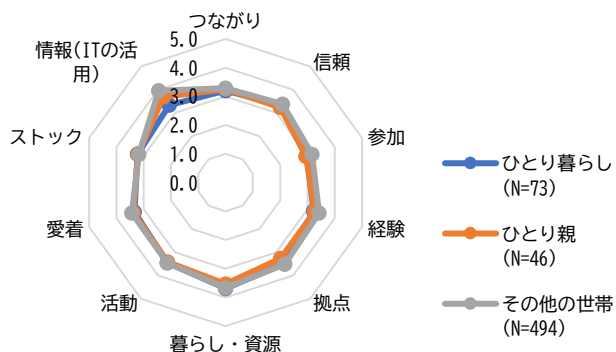
- 高齢になるほど、地域のちからの評価は低い傾向にある。
- 年齢による格差は特に、「情報(IT の活用)」「暮らし・資源」が大きい。

- 男女別でみると、わずかに男性の評価が高い傾向にある。
- 特に、「参加」「活動」「ストック」は男性の評価が高く、「情報(IT の活用)」は女性の評価が高い。

居住年数別



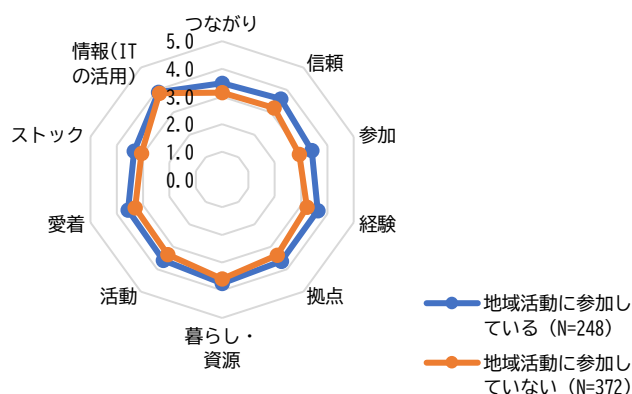
世帯別



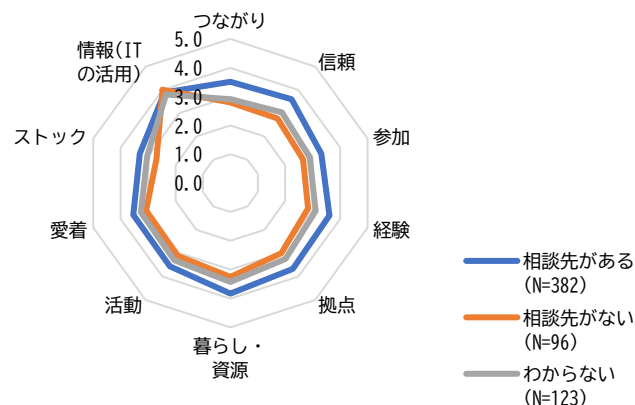
- 居住年数別でみると、「地域外に居住」の評価が高い傾向にある。これは地区外居住者に校区内の公共施設や社会福祉法人・NPOなどで働いている人、地域活動に参加している人が多いことが原因と考えられる。
- 地区内居住者では居住年数が多い人ほど「つながり」「信頼」「経験」「拠点」の評価が高い傾向にある。

- 世帯別でみると、「その他の世帯」の評価が高く、「ひとり暮らし」「ひとり親」の評価が低い傾向にある。
- 「信頼」「参加」「拠点」「暮らし・資源」「活動」の評価は「ひとり親」がもっとも低い。

地域活動への参加状況別



相談先の有無別



- 地域活動への参加状況別でみると、「地域活動に参加している」人の評価が高い傾向にある。
- しかし、「情報(ITの活用)」は「地域活動に参加していない」人の評価が高い。

- 相談先の有無別でみると、「相談先がある」の評価がもっとも高く、次いで「相談先がない」「わからない」の順になっている。
- 「情報(ITの活用)」の評価は「わからない」がもっとも多く、次いで「相談先がない」「相談先がある」の順になっている。



葦原小学校区の「強み」と「弱み」

強み

1. 買い物や移動の利便性が高く、子育てがしやすいなど、地域の暮らしに満足している。
2. 隣近所のつながりが強く、いざというときに助け合う関係があり、防災・治安意識も高く、安心して暮らせるまちである。
3. 自治会活動が活発で、地域活動に参加する機会が多く、情報の収集や発信にスマートフォン、パソコン、インターネット等を活用している住民が多い。
4. 総じて、今後も住み続けたいと思える「地域」である。

弱み

1. 外国籍、障がい者、いろんな性的指向や性自認を持った人など、多様な人々が参加する地域活動や機会、拠点が少なく、それらの人々との出会いやつながりが少ない。
2. 孤立、孤独という地域課題を抱えており、地域課題に対して柔軟な対応ができていない。
3. 各地の先進的な実践に学ぶことや、新たな取組に失敗を恐れずチャレンジすることが弱い。
4. 地域に必要な担い手や人材の育成、自主財源の確保が弱い。

住民が自分らしく、幸せに暮らしていくことのできるまちづくりへの課題

誰ひとり取り残さないまちづくり

一人ひとりの生き方が尊重され、社会との関わりを基礎として自律的な生活を継続していくことを支援する機能の強化が求められています。特に今回、課題として明らかになった外国籍、障がい者、いろんな性的指向や性自認を持った人など、多様な人々との出会いやつながりを大切にしたいまちづくりが求められます。

住民を主人公にした包摂的なコミュニティづくり

「支える側」「支えられる側」という関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティづくりをめざしていく必要があります。

地域の担い手、人材育成を重視したまちづくり

多様な住民がいきいきと活躍する「場」を提供するとともに、地域の担い手、人材育成を意識的に取り組んでいくまちづくりが必要です。

課題解決のため仕組みづくりとその見える化

支援が必要な人を早期に発見し、相談から必要なサービスや見守りに繋げるための健康福祉セーフティネット会議の取組を住民一人ひとりにわかりやすく伝えていく必要があります。

チャレンジングなまちづくり

多様な住民の能力を活かし、魅力的な人材が活躍できるよう、失敗しても何度でもトライ(チャレンジ)することのできるまちづくりが必要です。

葦原小学校区健康福祉セーフティネット会議

問合せ先	茨木市南保健福祉センター	072-630-2550
	沢良宜いのち・愛・ゆめセンター	072-635-7667
	NPO 法人はっちぽっち	072-648-7980